

しんぎ かいぎ けっか  
審議(会議)結果

しんぎかいとうめいしょ 審議会等名称	だい かいかながわけんしようがいしゃせさくしんぎかいしょうがいとうじしゃぶかい 第6回神奈川県障害者施策審議会障害当事者部会
かいさいにちじ 開催日時	れいわ ねん がつ にち かようび じ ふん じ ふん 令和7年11月18日(火曜日) 13時30分から15時30分まで
かいさいばしょ 開催場所	かながわけんちょうしんちょうしや かい だい かいぎしつ さんかあ 神奈川県庁新庁舎5階 第5会議室(オンライン参加有り)
しゅつせきしや 出席者	ぶかいちょう ないとういいん い かめいぼじゅん おやまいいん こにしいん こやまいいん 【部会長】内藤委員、(以下名簿順)尾山委員、小西委員、小山委員、 さるわたりいいん しもじょういいん せきいいん たかのいいん たかはしいいん たが や いいん 猿渡委員、下条委員、関委員、高野委員、高橋委員、多賀谷委員、 ならざきいいん はんざわいいん ゆみやいいん けい にん 奈良崎委員、榛澤委員、弓矢委員(計13人)
じかいかいさいよていび 次回開催予定日	みてい 未定
しょぞくめい たんとうしゃめい 所属名、担当者名	しょうがいふく しかきかく かとう 障害福祉課企画グループ 加藤
といあわ さき 問合せ先	でんわ 電話(045)285-0528 ファクシミリ(045)201-2051
けいさいけいしき 掲載形式	ぎじろく 議事録
しんぎけいか 審議経過	いか 以下のとおり

## 《議題》

- (1) だれもが参加しやすい「eスポーツ」について  
 (2) 障がい当事者の視点から「働くこと」を考える

## 《報告》

- (1) グループホームや施設で生活する方のためのノートについて  
 (2) 「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」  
 の見直しについて

## 《配布資料》

- 資料1: だれもが参加しやすい「eスポーツ」について  
 資料2: 障がい当事者の視点から「働くこと」を考える  
 報告資料1: グループホームや施設で生活する方のためのノートについて  
 報告資料2: 「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」の見直しについて

## 【事務局による進行】

- ・首藤副知事挨拶
- ・事務連絡

## 【内藤部会長による進行】

(内藤部会長)

内藤でございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。皆様が活発に御自分の意見を表明できるよう、有意義な会となるように、御協力をお願ひいたします。

それでは、早速議事に入ります。本日は議題が2つ、報告が2つでございます。議題と報告の順番、時間の目安は、次第のとおりでございます。それでは、次第2の(1)、1つの議題でございますが、「誰もが参加しやすいeスポーツについて」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料1に基づいて説明

(内藤部会長)

ありがとうございました。こういうことをしたいという御意見ございましたらどうぞ。猿渡委員、よろしくお願ひします。

(猿渡委員)

猿渡です。今日ここにロボットを持ってきているのですが、これはシャープが出している「ロボホン」というものです。これはeスポーツではないのですけど、ここにもう1体いまして、2体を親子設定すると離れている親御さんと会話ができたり、あと「ポケとも」というのが今度でますが、それはシャープの仲間同士でお話ができたりとか、そういうものがあります。

それでeスポーツなんですけれども、私はボッチャをやっていて、ボッチャのeスポーツ版があります。視覚障がいの方とかだとちょっと難しいかもしないんですけど、介助者が指示を出して、どこにボールを飛ばしたらいいかという指示ができればできるスポーツです。そういうものがあったり、あとは先ほどSwitchの大きいコントローラーがあったと思うんですが、テクノツールというところがSwitchの大きいコントローラーや大きいボタンを作っています。例えば、呼吸器ユーザーが呼気スイッチとかを使うものがあればできるのかなと思います。

一般に作られてるものわかりやすい版というのができるとよいと思います。私もときどき参加しますけれども、普通のボッチャよりもeスポーツのボッチャの方が考えることがあって、逆に面白いというのもあります。

あとは、本当に皆さんやりたいと思うものを、ドローンとかもいろいろありますので、そういう装具をするというのも将来あるのかなと思いますし、なかなかどういうコント

ローラーがあるかって知る機会がないので、できれば国際福祉機器展（H.C.R）みたいなものを神奈川県でも開催してもらえるとありがたいと思います。

(内藤部会長)

ありがとうございました。小西委員から手が挙がっております。よろしくお願ひします。

(小西委員)

すみません、聞きたいんですけど、場所はどこでやるんですか。eスポーツというのは場所を取ります。障がい者にとって、場所は広い方がよいと思います。  
そして、対戦相手はどこから対戦するのですか。よろしくお願ひします。

(事務局)

まずeスポーツですけれども、「大会」とイメージしてしまうと、どうしてもおっしゃるようにイベントの場所というのは体育館であったり、そしてそこにゲームができるコンピューターを並べるというイメージがございますので、もちろん大会やイベントとなりますとそれが開催されている場所に行く必要が出てきます。

ところが、eスポーツの「e」というは、いわゆる「インターネット」でございますので、基本的に対戦したり、競争したり、協力したりということに関しましては、御家庭でそのままプレイする、そこで競うことができるということになります。特に、eスポーツの大会の予選というのは大体オンラインなのです。つまり、自宅から参加をするということになります。それはやはり場所を借りる方が逆にコストがかかる、準備をする方も人出が多いということで、御自宅のパソコンや病院からインターネットに接続をして、対戦相手をマッチングするのですけれども、対戦相手を自動でコンピューターが振り分けたりして、同じぐらいの技量の人と競わせるというようなことをやっているゲームもございます。

ですので、場所についてはイベント的な全国大会とか世界大会でいうと、スタジアムや体育館のような場所で行なうこともあります、実はいろいろな大会がオンラインのみで自宅からアクセスする形で行われているのが現状でございます。

また、先ほど今年度の取組で「ともいきゅうえんち」について御説明しました。茅ヶ崎市の体育館で開かれ、その一部を借りて実施いたしました。その際は車椅子の方ですとか、ベッドに寝たまま参加された方もいらっしゃいます。また、もう1つの「かながわみんなのスポーツフェスティバル」というのも、県立のスポーツセンターや体育館で行いましたので、わりと広い場所を使って実施いたしました。あともう1つ、対戦ですけれども、対戦はその場にいらっしゃった方同士の対戦ですか、あとは障がい者のeスポーツプレーヤ

かた よ かた たいせん たいけん  
一方をお呼びして、その方と対戦するといった、そういった体験をしていただいております。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

たかはしいいん ねが  
ありがとうございます。高橋委員、よろしくお願ひいたします。

たかはしいいん  
(高橋委員)

たかはし きょうりょく わたし ぜんもう しゃ いー  
高橋です。ご協力いつもありがとうございます。私は全盲ろう者です。ですから、e  
けいけん いぜん すこ み とき いー けいけん  
スポーツをやった経験がありません。以前、少し見えていた時にeスポーツをやった経験  
があります。たとえば、スーパーマリオゲームであったり、画面を見てゲームをすることが  
できました。けれども視力が落ちてしまってからは、今は全くすることができません。  
さわ ふ ねが しんどう つか いー  
触ること、触れてできるようなゲームがあればと願っています。振動を使うようなeス  
ポーツがあればと願っています。また、もぐらたたきゲーム、出てきたものが手に触れて  
わかれば、もぐらたたきゲームもできるのではないかと思っています。後ろから支援者の  
かた し じ み て さわ う かんが  
方に指示をいただいて、見えないので手で触って打っていく。そういうことができれば、  
ひとり むり ぱあい しえんしゃ たす うし しえんしゃ かた し じ ほうこう おし じっさい しんどう  
一人では無理な場合でも支援者に助けていただきながらできるのではないかと考えてい  
ます。後ろから支援者の方に指示をいただいて、方向を教えていただきながら実際に振動  
さわ じぶん で たいかん じっさい じぶん たいかん め み  
を触って、自分でももぐらが出てきているのを体感しながらたたく。そういうサポートを  
していただきながら、実際に自分でも体感しながら、そういったものがあれば目が見えな  
くても盲ろう者でもできるのではないかと思っています。  
ふる せいこう ふ  
たたいたら震える、たたいたということが成功しているかどうかということも触れてわ  
かるというような技術があれば、テクニカルな進化があればいいなと思っています。人と  
の対戦のゲームというのは、手で触ることによって、パネルを触ることによって、盲ろう  
しゃ たの つく ねが いじょう  
者が楽しめるゲームをぜひ作っていただきたいと願っています。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

さるわたりいいん ねが  
ありがとうございます。猿渡委員、よろしくお願ひします。

さるわたりいいん  
(猿渡委員)

いー ほそく ももたろうでんてつ さがみはらし しちょう はい  
eスポーツの補足なんですけど、桃太郎電鉄2に相模原市がやっと市長のおかげで入り  
まして、例えば桃太郎電鉄だったら電車が来たところに点字をあわせたり、あと振動とか、  
アクセシビリティで設定できるようにすればできるのかなという気はします。  
かか とりつ しえんがつこう がつこうどうし けつこういー  
そういう関わりとか、あと都立の支援学校だと学校同士で結構eスポーツをやってるん  
ですよね。なので、教室1個分の広さでもできると思います。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございます。高橋委員から提案がありましたことに関して、事務局から説明があるそうでございます。よろしくお願ひいたします

じむきょく  
(事務局)

テレビゲームというのは、そもそも画面を見ること、音を聞くことを前提に1970年代から作られてきましたので、おっしゃるとおり見ることも聞くことも難しい場合ですと、今ぱっとできるゲームというのを挙げられないのが非常に心苦しいです。

しかし、大変なヒントをおっしゃらでいて、触感ですとか振動ですとか、いわゆるハプティクス、フィードバックという言い方もしますけれども、実はこれはVR技術、私はともいきメタバースも関わっておりますのでVRなども詳しいのですが、仮想のものに対して振動だったり触った感覚をフィードバックして伝えるという技術が同時に進歩しています。ですので、これは気を持たせるという意味ではないのですけども、必然的に仮想空間で、という言い方をすればよいでしょうか、視覚や聴覚によらないフィードバックによってゲームを体感できるというのはそう遠くないと私は考えております。

ともいきゆうえんちで全盲の方が格闘ゲームをされていて、北村直也選手といいます。私も素人ながらかなり強い気持ちで格闘ゲームの練習をいつもやっているのですが、惨敗しました。直也選手が何をしているかというと耳でゲームの機能によって、格闘ゲームですから相手との距離感ですか、相手が何の技を出しているかですか、全部耳で判断して戦って勝つということをやってらっしゃいました。

私は、eスポーツは「諦めなくていい(e)スポーツ」というふうに思っています。私は運動が苦手で全然やる気が出ないのですけれども、ゲームだと、eスポーツの世界であれば人とやり合うこと、競争すること、協力をすることを諦めなくていい、そういう時代になっていると思いますので、私もeスポーツの業界にたくさん知り合いがおりますので、おっしゃられたお話を伝えたりして、早くそういった隔てなく、皆さんが楽しめるよう努めてまいりたいと思います。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

どうもありがとうございました。奈良崎委員、よろしくお願ひいたします。

ならざきいいん  
(奈良崎委員)

奈良崎です。私自身、eスポーツをずっとやっていました。知的障がいの方は、結構ゲーム好きが多いです。それはなぜかというと、スマホでゲームができるようになってから、皆さん課金してしまって、仲間では今スマホのゲームは依存症の人が多いのですが、知的

いぞんしょう わたし なかまうち なかまどうし いぞんしょう  
のスマホの依存症って、私たち仲間内では、仲間同士で依存症にならないようにちゃんと  
き ねが 決めようとお願いをしたいのです。

たと いちじ ちてきどうし まいかい  
例え、メダルゲームとかも一時とても知的同士でバトルになっていて、毎回ゲームセ  
ンターに行くたびにメダルを何個とったからこれをお金に替えようとか、あとスマホの  
りょうきん はら ひと いま かい なかま ともだち しようかい  
料金を払えない人が今うちの会の仲間にいっぱいいて、それでそれを友達に紹介すると、  
こぶん つうわりょうきん なん やす けっこう いー  
その子の分の通話料金が何%か安くなるんです。それで結構スマホでeスポーツをやって  
いるんです。例え、それをちゃんと無料なのかとか、どこまでが無料なのか、これを見た  
りょうきん はつせい せいし ほ ねが いじょう  
らインターネット料金が発生しますとかの制止が欲しい、それをお願いしたいです。以上  
です。

### ないとうぶかいちょう (内藤部会長)

はんざわいいん て あ はんざわ  
ありがとうございます。オンラインで榛澤委員が手が挙がっておりますので、榛澤  
いいん ねが 委員、よろしくお願ひいたします。

### はんざわいいん (榛澤委員)

いー かん さがみはらし いー びーがたさぎょうじょ  
まずeスポーツに関して、相模原市にもeスポーツをやるB型作業所というのがありま  
して、オンラインゲームをやって工賃をもらうというものです。今まででは工賃作業をやる  
さぎょうじょ かよ かた さぎょうじょ つづ せいしんしょ  
作業所に通えなかった方が、ゲームをやる作業所だったらずつと続けられるとか、精神障  
しゃ なか とくい す かた しよう しゃ しゃかい つな  
がい者の中にはゲームが得意だったり好きだったりする方がいて、障がい者が社会と繋が  
つたり、そういう通所施設に通えるための一つの方法としてすごく有効な手段だと思います。

いー かんけい ぼく なが はな ごめいわく  
あと、eスポーツと関係ないのですが、僕もすごく長く話してしまったりとか、御迷惑  
をかけたこともあると思うのですけども、ベルを鳴らすことについて、正直2分というい  
みじか おも な な しうじき ふん  
うのは短いですし、なかなかうまくコンパクトにまとめて伝えるのが苦手な方も障がい  
しゃ なか な とうじしやめせん おも ふん  
者の中にはいます。ベルを鳴らすことも当事者目線だと思うのですけども、2分でベルを  
な いわ しうじき たと しうがいしゃせさくしんぎかい なが はな ひと  
鳴らすのがすごく嫌です、正直。例え、障害者施策審議会でも長く話す人もいるし、な  
とじしやぶかい な やくしょ かた せつめい とき なが  
ぜ当事者部会だけベルを鳴らすのか。役所の方も、説明の時は長くなってしまってもしょうがない  
とうべん とき ふんいじょうなが しよう しや き  
のですけども、答弁の時は2分以上長くなったりします。障がい者がこういうところに来て一生懸命話しているのに、ベルを鳴らしてそれを止めるというのは、妨げるものでは  
い な と さまた  
ないと言いながら、それだったら障害者施策審議会でも鳴らせばいいのにやたら長く話す  
ひと とうじしやぶかい な しうじきぼく じぶん いや  
人もいます。それをなぜ当事者部会では鳴らすのか、正直僕、自分がやられるのも嫌です  
ほか かた いつしょうけんめいはな おお おと な と なが はな  
が、他の方が一生懸命話しているのに大きな音を鳴らして止めるというのは、僕個人の  
い い い  
意見ですけどもすごく失礼というか、当事者目線だっていつもあれだけ言っているのに、  
とうじしや いつしょうけんめいはな なが はな いま なが はな  
当事者が一生懸命話しているのにあまり長く話してはいけない。今も長く話してしまって

ごめんなさい。でも嫌でした、僕は。ただ、それをやめるかどうかは皆さんの意見もあるので、僕は正直すごく嫌だなと感じたのですけど、いかがでしょうか。

(内藤部会長)

ありがとうございました。最後の御意見はまた検討させていただくということで。

(榛澤委員)

今日はどうするんでしょうか。2分で鳴らすんでしょうか。

(内藤部会長)

それに関しては、とりあえずはこの予定でやらせていただいておりますですから、御承知おきくださいませ。

(榛澤委員)

わかりました。

(内藤部会長)

それ以外の委員の方で、このeスポーツに関してまだ話していないことがございましたらどうぞ。下条委員、よろしくお願ひいたします。

(下条委員)

下条です。私自身は、eスポーツって今まで全然関わってきていないです。ですが、スマホのアプリのパズルゲームはよくやっているんですけど、多分直感的にできるゲーム、パネルに直接タッチする系のゲームだったらやれるかなという感じはあります。ただ、画面が大きくないと精神とかだと薬を飲んでいて手が震えてしまうことがあって、それであまりに細かいところだと触れなかつたり、ずれちゃったりすることがあるので、ある程度隙間がある感じのパズルゲームだったらやりやすいなと思います。

あと、タイムトライアル系は焦ってしまって、パニックになってできなくてイライラする方が増えたりするので、隣に対戦相手がいて、対戦しているのが見える状況だと多分焦ってしまったりイライラするかなと私は思います。なので、やっているときに周りにその情報が入らない、でも終わったときにどっちが勝ったかはわかるというのは面白くて良いと思うんですけど、やっている最中に相手の情報が見えて焦って、それで嫌な思いをしたりとか、言葉がきつくなったりするのはちょっと嫌だなという感じはあります。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございます。他によろしゅうございますか。では、最初の議題に關しましては、これぐらいにして終わりにしたいと思います。続きまして次第2の(2)、2つ目の議題でございますが、「障がい者当事者の視点から「働くこと」を考える」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

じむきょく  
(事務局)

しりょう もと せつめい  
資料2に基づいて説明。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ただいま事務局から、「働くことにつきまして説明がございました。各委員の方、御意見がございましたら、いかがでございましょうか。はい、猿渡委員。

さるわたりいいん  
(猿渡委員)

さるわたり はたら たぎ たと せいしん も ぼく  
猿渡です。働くということが多岐にわたっていまして、例えは精神を持っている僕らであれば社会参加をすることも大変なことです。例えは相模原だと、精神保健福祉センターで「チームオンリーワン」という、B型作業所とか就労継続とかそういうところに行つて精神障がいの仲間を募っていくということと、あと啓発活動をやっています。もういくつかのところを回って、同じ精神の仲間だけどピアサポートもあって「そういうこともあるよ」ということを話したりします。

むかし しょう しゃううんどう じぶん ちいき で しゃかい か  
あとは昔からいわれてる障がい者運動です。自分たちが地域に出て社会を変えるということが一番大事だと思っているので、そこもありのお金というところだと思います。なので私たち、高野さんとかもそうですけども、24時間介助を必要としている人たちは介助者の人を雇うことで働いていることと同じなのです。そういう雇用主としての働き方というものもあると思います。支援者の人たちも同じだと思います。なので、そういう働き方もあるのかなと思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございました。奈良崎委員、よろしくお願ひいたします。

ならざきいいん  
(奈良崎委員)

ならざき きょう ひとりひとりかくしょう しゃ ぜんいん はな  
奈良崎ですけど、今日は一人一人各障がい者がいるので、できたら全員に話してもらつた方がいいと思います。それで「こう思います」と言っていただいた方がよいと思うので

すが、どうでしょうか。奈良崎は後で話します。以上です。

(内藤部会長)

奈良崎委員の方から、委員全員が一言ずつでもいいですから 働くことについて意見を述べていただきたいという提案がございました。どうでございますか。順番はございませんからどなたでもよろしいですけど、言っていただけたらありがとうございます。  
関委員、よろしくお願ひいたします。

(関委員)

関です。よろしくお願ひします。働くことのもっと大前提に、社会が障がい者に対し偏見があって、まずその偏見をなくさないと仕事に就きにくいといつも思っていて、そこが堂々巡りになったりするんです。なので、いろいろ考えてきたんですけど、まずそこが大前提なのかなと思っています。以上です。

(内藤部会長)

ありがとうございました。尾山委員どうぞ。

(尾山委員)

ピアソポーターの尾山です。よろしくお願ひいたします。精神障がいの立場で申し上げさせていただきますと、働くことの多様化を広めていきたいなと感じています。金額だつたり、時間であったり、内容であったり、これによって格差がつかないように、どんな内容でもどんな時間でもどんな金額でも、それは働いているんだという考え方方が広がっていくとよいかなということが1点目です。

2点目は、働くということは権利なんだということで、権利が侵害されている。ですから、就労支援というのは権利を擁護するという考え方方が広まっていくことを、私は大変期待しております。そうすれば、権利行使しないからといって不当な圧力が障がい者自身にかかるないことが大変望ましいのではないかと思っております。

(弓矢委員)

私は今、実際に働く中で、もちろん賃金を得るためというのも大きいんですけど、やつぱり普段人を頼っていて、人を頼らないと生活できない自分が人の役に立てていることにやりがいを感じています。

ただ、身体障がい者が働くというのは難しいというか、限られていて、就職活動する中でも身の周りのことが一人でできる人という条件になっているところが多い。通勤だ

ひるきゅうけい かいいじょしゃ て はたら  
ったり、お昼休憩だったり、トイレだったり、そういうときには介助者の手があれば働く  
けるのになと思いつつ、諦めることが多かったです。

いま かながわけない けっこう しゅうろうしえんとくべつじぎょう しごとちゅう かいじょしゃ せいど  
今、神奈川県内で結構、就労支援特別事業といって、仕事中に介助者をつけられる制度  
はじ おお よこはま かわさき さがみはら はじ けつきょく  
が始まっているところが多いです。横浜、川崎、相模原でが始まっているんですけど、結局  
つか きぎょうがわ りかい かん  
それを使うための企業側の理解というのはなかなかないなというのは感じています。やつ  
きみつほ じ かんてん おな ばしょ たいき むずか べっしつ たいき なに  
ぱり機密保持の観点から、同じ場所での待機が難しいから別室で待機してもらって、何か  
かいじょ ひつよう よ お一か よこ たいき むずか い  
介助の必要があるときに呼ぶのはOKだけど、べったり横で待機するのは難しいと言われ  
みると、それはそれで見守りが成立しなくて制度が使えないという難しさがあって、やっぱ  
せいど ととの きぎょうがわ りかい むずか かん  
り制度が整ってきても企業側の理解がないと難しいなというのはすごい感じています。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

つぎ たかはしいいん  
ありがとうございます。次、高橋委員よろしいですか。

たかはしいいん  
(高橋委員)

たかはし ぜんもう はたら わたし げんざいしごと つうやく  
高橋です。全盲ろうです。働くことについて、私も現在仕事をしておりません。通訳  
かいじょいん いつしょ そと で じぶん いえ で  
介助員と一緒に外に出ますけれど、自分だけではなかなか家から出ることができません。  
たと かいしや はい かいじょいん わたし じょうほう はい  
例えば会社に入ったとしても、そこに介助員がいないと私だけだと情報が入らないので、  
じょうほうほしょう たと ふうとう い たと いえ なか  
情報保障があれば、例えば封筒に入れたりとかできるんです。例えば家の中のテレワー  
クとか、内職のような仕事、封筒に入れるような内職のような仕事はできると思います。  
まえ い き ないしょく しごと ふうとう い ないしょく しごと おも  
前にハローワークに行って聞いたんですが、ほとんど無理と断られました。なぜかとい  
うと、盲ろう者は自分一人では歩けないから、情報がないから、コミュニケーションがで  
きないからと言われました。それで仕事は無理と断られました。盲ろう者でも、障がい  
があってもなくても同じように仕事ができて、できればお給料がもらえるというふうに  
うれ おも きゅうりょう  
なれば嬉しいと思います。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございます。

たかのいいん  
(高野委員)

せいどてき じゅうどうもんかいご つか きかい すく  
制度的には、やはり重度訪問介護を使えるようにしてほしいです。また、機会がとても少  
ないことが問題です。パソコンを使った作業はもちろん、ヘルパーに助けてもらいながら  
う だ もんだい つか さぎょう たす  
生み出すもの、例えば詩やエッセイみたいなものも働く機会と捉えて、機会を作ってほ  
いなと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございました。オンラインでございますけど、多賀谷委員、よろしくお願ひいたします。

(多賀谷委員)

多賀谷です。よろしくお願ひします。働くことについて、いろいろな考え方を持っている方もいらっしゃると思います。例えば男性の場合、会社で正規職員になれる人もいます。でも、女性の場合は家庭があるので、例えばアルバイトやパート、昼間2時間とか3時間、1週間に2~3回ということで、結局断られることが多いです。

コミュニケーションでいろいろずれがあったり、スムーズに取ることができないことがあります。いつも手話通訳がそこにいるということはないので、会社での理解を受けることが少ないです。限度もあります。それをちょっとでも、障がい者への理解、どの会社でも理解をしていただいて権利があるということ、わかつていただけたらと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございました。引き続いてオンラインの方で榛澤委員、お願いいたします。

(榛澤委員)

なるべくコンパクトにまとめようと思いますが、もし2分超えたらごめんなさい。まず、いただいた資料の2つ目の「働くに当たって困っていること」という項目の1つ目の意見を読ませていただいて感じたんですけども、「職場で、『なぜ障がい者と一緒に働くのか。障がい者は障がい者のところで働いた方がいいんじゃないか』と言われたことがある」という意見を読んで、すごく不快でした。この発言をした方の本音というのは、「僕は障がい者と一緒に働きたくない」と、「自分の職場には障がい者はいてほしくない」ということを直接言うと角が立つからこういう言い方をしたと思います。私も精神障がい者ですが、一緒に働いてみて感じたことは、すべての健常者ではないんですけども、職場で障がい者が僕一人、精神障がい者が一人だとすると、やっぱり健常者の中には障がい者にいてほしくない、特に精神障がい者とは一緒に働きたくないという方が少なくありません。精神障がい者と関わることは確かに難しいです。被害妄想があったり、マイナス思考だったり、調子に波があって休みが多かったり、攻撃的になってしまふ人もいます。やっぱり働くのは、より気を遣わなければならぬから面倒くさいというのは事実なので、その気持ちはわからなくはないです。  
ただ、私たち精神障がい者の立場としては、やっぱり社会に出て働くということが、

わたし いまはたら ほんとう はたら ころ かん じゅうじつかん  
私も今働くかせていただいている、本当に働いていなかつた頃には感じられない充実感  
はたら よろこ すこ じしん も よ おも  
ですとか、働く喜びとか、少しは自信を持てるようになって良いことだとは思うのです。  
けれども、じゃあどうしたらみんなに受け入れてもらえるかという時に、その答えが僕に  
はまだわかりません。ただ、障害者雇用率をいくら上げても、精神障がい者を対象にし  
ても、差別解消法をどんなに改正して就職において精神障がい者を差別しないように  
い けつきよくきれいごと たてまえろん こんばんでき かいつけ おも ぼく  
と言っても、結局綺麗事や建前論であって根本的な解決にはならないと思っています。僕  
も答えがわからないのですけども、どうしたら障がい者が本当の意味で差別されない、  
はいじょ かんが おも いじょう さべつ  
排除されないためにはどうしたらいいか考えていきたいと思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございました。次、奈良崎委員、お願ひいたします。

ならざきいいん  
(奈良崎委員)

ならざきいいん わたし ちてきしよう ほんとう いや かいしや しょう しゃこよう  
奈良崎委員です。私は知的障がいなんですけど、本当に嫌なのが、会社で「障がい者雇用  
やど しゃちょう ねが わたし あいか いつしょ  
で雇って」と社長にお願いをしているのですが、私は相変わらずアルバイトでずっと一緒に  
とき ほじょう たと ゆうきゅう おや かいご  
なのです。その時に補償がないので、例えば有休もない。それと、うちは親の介護をしないといけないので、介護手当や休みが欲しいと最近思いながら働いています。

わたり おも きのう へいき どうどう ならざき  
それで、私がありがたいと思うのは、昨日もうちのリーダーに平気で堂々と「奈良崎さ  
ん、これやつといて。僕は他のところ行くから。電話も置いておくから。」と言われて、そ  
うやって自分として認めてもらっていることがいっぱいあるのでありがたいと思うのです  
さいきんけつこう かん つら いじょう  
が、最近結構プレッシャーを感じて辛いなということがあります。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございました。次、小山委員、よろしくお願ひします。

こやまいいん  
(小山委員)

よこすかほんにんかい こやま しょう しゃ じぶん しごと つ  
横須賀本人会の小山です。なかなか障がい者は自分の仕事というのには就けないです。  
めんせつ ちてきしよう しゃ おーけー ほっさ たいおう  
面接になると、知的障がい者ならOKなんだけれども、てんかんだと発作で対応ができる  
い めんせつ たと よこはま おお めんせつかい ちてきしよう しゃ おーけー  
いと言われるのです。面接で、例えば横浜で大きな面接会があると、「知的障がい者ならOK  
なのだけど、てんかんだとうちの会社では対応できません」と言われて、「全般発作で一番  
おも かいしや たいおう い ぜんばんほっさ いちばん  
重いやつです」と言うと「救急車を呼ばれるのは困る」と言われて、そういう断り方を  
されるのです。

めんせつ さぎょうじょ はい  
面接ではそういうことがあって、そして作業所に入るとずっとアルバイトかパートです  
いつしようはたら あと き ひと しゃいん じょうし  
つと一生働く。そして、後から来た人がどんどんどんどん社員とか上司になるという

形で、障がい者で社員という人はなかなかいません。それっておかしいのではないかなと思うのです。何で私たちだけパートやアルバイトという扱いになっているのか。障がい者で社員って、確率的には1000人に1人ぐらいだと思います。それぐらいの確率だと思います。だから、学歴のある人たちがばかにするというのはその点なのです。

あと、今は横須賀に住んでいて、川崎とか横浜とか遠くのところに行かなきやいけない。それで通えなくなると近くのB型作業所と決められているから、家の近くで働くって100%ないです。そういう状況もあるし、あと働く場所の確保、理解をしようというのは難しい。だから、もっと障がい者の社員を増やしてほしい。ちゃんと健常者以上に働いている人もいるので。以上です。

(内藤部会長)

では小西委員、よろしくお願ひします。

(小西委員)

ピープルファースト横浜の小西です。それをいうと私もてんかんです。私は非職員です。私の中で思っているのは、障がい者の中でも家から出る人は完全に働けます。それで、うちも知的障がいの重い人を預かっています。だけど、B型作業所になると給料が全然ありません。そこを何とかしてほしいです。本当のことを言えば、皆がどうしたら楽しく働くのかというのもわかりません。皆の心なんか読めません。私は神様ではありません。よろしくお願ひします。

(内藤部会長)

ありがとうございました。じゃあ次、下条委員よろしくお願ひします。

(下条委員)

下条です。私自身、A型作業所で働いていたことがあるのですけれども、それまでに仕事らしい仕事をちゃんとしていなかったということもあります、実際に働いてみないと働くという感覚自体がわからないというのをすごく実感しました。

私自身、長期に渡って仕事をするということがなかったので、自分ではできると思っていました。でも、フルで1日働くことが、実際に働いてみたら無理だということがやつてみてわかったんです。それ 자체を試してみないと、どういうものなのかがわからない。例えば1週間とかのお試しだとしたら絶対にわからなかつた、例えば通勤時間が長くなつてしまつたときに通勤ができなくなつてしまふ、具合が悪くなつてしまつてこれは無理だとか。あと、1日働いてみた疲労感が1週間ではわからなかつたものが、1ヶ月とか2

ヶ月とか長期に渡ったときに疲労のたまり具合が全然考えていたものと違くて、そのあと影響がひどくて仕事ができなくなってしまったとか、実際にやってみないとわからないことが多いです。

なので、お試しで仕事を、ある程度期間を区切って仕事をやってみたいと私は考えました。そうしないと、会社に就労した後にここまで働いたのにそこで無理だとわかったときに、じゃあ辞めるということになってしまいます。できないから、そこで切れてしまいます。それが、お試しである程度の期間行ってやってみて、それで無理だったら諦めるということもできるし、これ以上の仕事をするにはどうしたらいいかという見直しもできるような感じがしていて、そういう企業ごとのお試し期間というのが欲しいなと思いました。以上です。

### (内藤部会長)

ありがとうございました。猿渡委員、よろしくお願ひします。

### (猿渡委員)

皆さんおつしやられた、僕もそうですけれども重度訪問介護ですね。埼玉とかちゃんと導入している自治体もありますが、職場介助だとやっぱり短かつたりもします。例えば県の仕事だったら、会計年度任用職員とか、任期付職員とか、臨時採用とか、再雇用とか、短時間雇用とかあると思います。また、例えばともしび喫茶みたいなところとか、視覚とか聴覚とかそういう方が働いているお店もあるのですけども、やっぱり数が少ないとと思うのです。なので、県庁で仕事するのは難しいと思うので、ともしび喫茶やともしびショップがもうちょっと増えたりとか、あとはオリヒメ、今はなくなってしましましたが、インターネットを使って雇用する場を作る。

あと、チャレンジ雇用に関してはやっているところもあると思うんですけど、僕が以前働いていた会社で一番ひどかったのは、自分がけがなどした時、親に対して「何かあったら責任とれるか」と言われたことがあります。そういうことが障がいを持っている方にはあります。僕らは特にそうです。生死に関わる、そういうことがあるので、やっぱりちゃんとした個人として見てほしいということと、社会が理解をするというよりかは社会を変えていかなければいけないというところをどうすればいいかというのは、もうちょっと企業側や県と当事者で話し合えたらしいのではないかと思います。

### (内藤部会長)

ありがとうございました。皆さん、御意見いただきましてありがとうございます。最後に内藤の方から、私が考えている働くことを話させていただきます。

私は今まで、定年まで正社員で働いておりましたものですから、働くとは社会との関係を持ち続けることができるのが一番、働くことではないかなと考えております。今は自治会等々、そういうところにも顔を出させていただいて、いろいろやらせていただいているのですけど、なかなか定年になって外へ出なくなりますと自分の殻に閉じこもってしまいます。それがいわゆる社会との関係だったり、いろいろ他の人と関係を持つことが一番、本来は給料をもらえたたら一番よろしいのでしょうかけど、給料はちょっと置いといてでもその関係が持てるようなことができるのかなと私は思っているところでございます。

ちょっと余計なことを言いましたけど、よろしゅうございますか。そうしましたらこの働くことにつきまして、これで終わりにしたいと思います。時間が今、14時45分になりましたので、14時55分に再開したいと思います。皆さん、よろしくお願ひいたします。

～10分間の休憩～

### (内藤部会長)

14時55分になりましたので、再開したいと思います。続きまして、報告事項でござります。報告事項は、2件続けて説明していただきました後に、まとめて質疑の時間をとりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。それでは次第2(3)「グループホームや施設で生活する方のためのノートについて」、(4)「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～の見直し」につきまして、事務局の方から説明をお願いいたします。

### (事務局)

報告資料1、報告資料2に基づいて説明

### (内藤部会長)

ありがとうございました。ただいま事務局の方から、報告事項につきまして説明がございました。報告資料1と2、どちらでも構いません。御質問のある方はお願ひいたします。猿渡委員、よろしくお願ひします。

### (猿渡委員)

報告資料1なのですが、さっきも小西さんとかとも話したのですが、確かに絵で描かれるとわかりやすいです。奈良崎さんの絵もすごくいいなと思っているのですけれど、その反対の1ページのところです。確かに、「虐待かもしれません」とか「嫌だな」とか「や

めてほしいな」とか「やめて」というのはわかります。だけど、その「やめて」とか「嫌だな」ということが微妙だったり、障害者虐待防止法という法律はもうちょっと簡単に「こういう法律です」と書いて、じゃあ虐待防止法は基本的に市町村の障害福祉課が担当したり、社協が担当しているということがあるので、そういうことも明記していただきたいと思います。

あと、「嫌なことがあったときに相談できる人を書きましょう」と書いてありますが、相談できる人がいない人もいます。あと、成年後見人のところに社協がやっている日常生活支援事業、金銭管理とかそっちの方も入れていただけると一番わかりやすいのと、もう少し「困ったときの連絡先」というところを改善していただいて、例えば民生委員さんとかに関わりのある方もいるかもしれないし、生活保護の担当者の方もいるかもしれないで、一番身近に相談にできる人が誰かということを書けるとわかりやすいです。

確かにここの中に、この中に書いていることはわかりやすいんですが、もうちょっと例を挙げてもらえるとすんなりくるのではないか。ネグレクトとかそういうのはわかると思うのですけど、「お金を渡してくれない」というのはどういうことかとか、そういうところが難しいと思うんです。

なので、もうちょっと皆さんのがわかりやすいような書き方ができるといいし、これをこの皆さんから発信していただいた方がよい気がします。以上です。

### (内藤部会長)

ありがとうございました。下条委員、よろしくお願ひいたします。

### (下条委員)

下条です。報告資料1の「困った時の連絡先」のところなんですけれども、人権センタ一系が入っていないです。そちらを入れていただきたいのと、連絡先に電話をかけたりしたときに、今自分がどこにいるのか、自分が何を伝えるべきなのかを書いておかないと、自分の思考が停止てしまっている状態の人にとって、それをその場で考えて言うというのはとても難しいと思うのです。なので、自分の名前とか自分の今いる場所とか、何をされていて自分はどうしたらいいのかとか、そういうことを先に書いておく場所が欲しいと思います。その場で何を伝えればいいのかとか、聞かれたことに対して考えなくてもそのまま答えられるようなものがあると、直接伝えやすいし、もっと使えるものになるのではないかと思います。以上です。

### (内藤部会長)

ありがとうございました。非常に当事者の声、万が一になったときの、ということでお

話していただいたと思います。非常に有意義な御意見だったと思います。次、オンラインの方で榛澤委員、手が挙がっていることでござります。よろしくお願ひします。

(榛澤委員)

やっぱりベルはやめないんですね。

(内藤部会長)

今日に関してはもうこれでいきますと先ほどお話ししましたので、それはもう承知してくださいませ。

(榛澤委員)

確かに同じ人がずっと話し続けるのはよいことではないです。それだと話せなくなるので。ただ2分はちょっと短いかなって、他の人の発言を聞いてみて、皆さんやっぱり長くしてはいけないとすごく萎縮して、十分に言いきれていない気がします。例えば5分とか、それ以上だとちょっと長いですが、ちょっと2分は短いかなと思いました。

それで、僕がこの報告資料1を見て思ったことは、役所の方たちは虐待してないですか。ここに、「職員が、あなたにとっていやなことをしていたらそれは虐待かもしれません」、「もし、「いやだな」「やめてほしいな」とおもったら「やめて」と言っていいのです」と書いてあります。今の会議で皆さんのが少し委縮して遠慮して、まともに話しきれてないというのも心理的虐待にはならないのでしょうか。虐待って、やっている方は気付かないけど、他の人がベルを鳴らされているのがすごく不快です。それは心理的虐待、これは相手のためとか、ルールを守るためにという感じで正義はあるのでしょうかけど、やっぱり相手の立場とか気持ちとかも考えるべきで、他の人で別にベルを鳴らされて何とも思っていない方もいると思うので、僕だけが正しいというわけではないんですけど、考えてほしいなと思います。

僕も今まで役所の方と関わってきて、正直嫌だなと思うこともありました。そして、もちろん皆さん一生懸命やっている、忙しい中やっているのですけど、やっぱり当事者目線とか虐待防止と言っている以上は、まず自分たちが障がい者と関わっているときに本当に相手に虐待をしていないかどうかということを、もう一回よく考えていただければと思いました。以上です。

(内藤部会長)

ありがとうございました。次に奈良崎委員、よろしくお願ひいたします。

ならざきいいん  
(奈良崎委員)

ならざき ほうこくしりょう うし こま れんらくさき いつしょ  
奈良崎です。まず報告資料1について、後ろの「困ったときの連絡先」というのを一緒に  
だれ か ひと たと ちてき ばあい なかま  
誰か書いてくれる人がいるのかなと思いました。例えば知的の場合とかうちの仲間もそう  
ひとり か けっこうたいへん かながわけん いつしょ ことば す  
なのですが、これを一人で書くって結構大変です。神奈川県って「一緒」という言葉が好  
きじゃないですか。「共生」とか「ともに生きる」とかそういうタイトルをよく使うので、  
つか おも  
そこを使ってもよかったです。おも

さき さるわたり じょうほう の い ちてきしょ  
あと、先ほど猿渡さんがいろんな情報を載せてほしいと言いましたが、知的障がいは  
ぎやく の よ たと じょうほう ちい しゃしん  
逆に載せすぎると読みにくいので、例えば情報として小さい写真で「インターネットで  
み クラウド じょうほう の  
も見られますよ」とか、そういう工夫をされるとよいと思います。情報っていっぱい載せ  
られてしまうと知的の人は余計にわかりにくいので、そこは工夫されてもよいのかなと思  
いました。

とうじしゃめせん しうがいふくししいんじょううれい みなお  
それともう1つ、当事者目線の障害福祉推進条例の見直し、ありがとうございました。  
わたし き じょうれい はじ あと かだい たぶんもう しゃ  
私が気になったのは、条例が始まった後のこれから課題って、多分盲ろう者だけでは  
ないじゃないですか。例えば今回は盲ろうの人について載せるけど、多分この先各障が  
しゃ ひと じぶん しよう じょうほう ほ の うれ ぜんぜん  
い者の人も、自分の障がいが情報が欲しいというときに載せてもらえると嬉しいなとい  
うのがあります。それはどうしてかというと、私ピープルファースト大会のことを全然知  
らなくて、応募した時点でもう終わっていたということがありました。そういう意味で  
かくしょ しゃ じょうほう ばしょ じょうれい やく た  
各障がい者も、ちょっとその情報の場所に入れてもらえると、この条例が役に立つの  
かなと思いました。お願ひしたいです。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

じかん お せきいいん さいご おも  
ありがとうございました。時間が押しているものですから、関委員で最後にしたいと思  
ねが み  
いますので、よろしくお願ひいたします。

せきいいん  
(関委員)

せき しもじょう い ついかきてき かん いま こま  
関です。下条さんが言っていたことの追加的な感じなんですが、今どんなことで困って  
いるか、2ページ目の絵を見て「虐待とはこんな感じです」とあって、後ろを見て「困つ  
とき れんらくさき でんわ そごうまどぐちてき ふわ  
た時の連絡先」があって、どこに電話すればいいのかというのがそもそもわかるのかなと  
おも れんらく いじょう  
思ったので、「ここに連絡してね」みたいな総合窓口的なものがあると振り分けがしやすい  
と思います。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ほんじつ かいぎ ないよう  
ありがとうございました。よろしゅうございますでしょうか。本日の会議の内容につき  
じかい しうがいしゃせきくしんきかい ほうこく  
ましては、次回の障害者施策審議会で報告させていただきます。それでは、進行を事務局

かえ ねが  
へお返しさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

じむきょく  
(事務局)

ないとう ぶかいちょう みなさま ほんとう ほんじつ ぎだい ほうこくじこう いじょう  
内藤部会長、皆様、本当にありがとうございました。本日の議題と報告事項は以上です  
が、本日の会議を持ちまして第1期が終了となります。そこで次第の3、この第1期の  
振り返りといたしまして、この会議の立ち上げから携わってくださいました皆様から一言  
ずつ頂戴いただければと思います。私からの指名で恐縮なんですけども、尾山委員か  
ら順番にマイクを回させていただきますので、一言ずつコメントをいただければと思いま  
す。尾山委員、よろしくお願ひいたします。

おやまいいん  
(尾山委員)

せいしんしょう しゃ おやま だい き かえ てんもう あ  
精神障がい者の尾山です。第1期の振り返りにつきまして、2点申し上げさせていただ  
きます。1点目は、精神障がい者の立場で発言できる機会が得られたことを感謝しており  
ます。2点目は、県が盲ろう者に関する検討を行うということは、高橋委員の発言の大  
きな成果だと思います。この2点により、私、大満足ということで、振り返りさせていただき  
ました。以上です。

たかはしいいん  
(高橋委員)

ありがとうございます。

せきいいん  
(関委員)

せき ねんかん まいかい かだい かんが きかい じぶん おお  
関です。2年間、毎回たくさん課題を考える機会をいただいたおかげで、自分を大き  
く成長させてもらえたと感じております。違う障がいの方たちとこの部会で話し合えた  
ことは、私の財産になりました。勉強になりました。考える力をつけさせてもらいま  
した。

じぶん いちばんたいせつ とうじしゃひとりひとり しんし よそ  
自分がピアソポーターとして一番大切にしたいのは、当事者一人一人に真摯に寄り添う  
ことで、それは2年前と何ら変わりはありません。ばく然としていたことが、より明白な  
もの かくしん ぜん めいはく  
物になったことを確信しています。

こんご ぶかい かっぽつ いけん そくしん しよう べつ はな  
今後の部会についても、より活発な意見を促進するため、ベースとして障がい別に話し  
合うことが必要ではないかと思います。どんなことを決めるにも時間がかかっている、そ  
れは必要な時間だと思いますが、その間も困っている人はたくさんいると思うので、  
じかんてき かんが ひと おも  
時間的なことも考えてほしいです。

さいご みな ねんかん つか お ねが  
最後に、皆さんこの2年間、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。終わ  
ってしまうのが寂しいですが、またどこかでお会いできることを願っています。

(下条委員)

下条です。皆様、お疲れ様でした。2年間という期間がすごく短かったような気がしております。当事者オンリーでこの会議が始まった当初、本当にこれでまとまるのかと思っていたのですが、2年経って一区切りということで、皆さんのお意見を聞くということを一人一人ができるようになったのが本当にすごいなと思っていて、部会長さんがすごくまわしてくださっていて、本当にありがとうございました。

この会議って3障がい、精神、身体、知的、その上に盲ろうの方もいて、普段私たちの会議というのは、同じ障がいの人たちが集まる会議が多いのですけど、他の障がいの人たちとお話をすると、同じことを考えるということが少ないので、部会があることですぐく私は良かったと思っています。自分で積極的にいかないと聞けない情報とか、私たちが普段の生活では知らない情報とか、その苦労とかを私たち本人が知らないので、実際の苦労とか声を聞かない限りわからないところも結構あります。そういうのが聞ける機会というのが本当に良かったと思うので、これからもまたこういう機会を作つていただきたいと思います。

(小西委員)

小西です。ありがとうございました。今日ここには、障がいを超えるとする人たちがいます。皆さん、本当につらいと思います。どのグループも、障がいを抱えています。我々も障がい者です。皆でまた2期のときもいろんな話をしましょう。ありがとうございました。

(小山委員)

小山登です。お疲れさまです。いろいろな立場でお話をしたというのが良かったと思います。またぜひお願いします。

(奈良崎委員)

奈良崎です。皆さん、お疲れ様でした。2年間でいっぱい頭を整理しながら皆すごいなと、内藤さんすごいなと思って毎回毎回思っていました。

あと、やっぱり一個一個会議の課題が多い。できたらもうちょっとコンパクトで少人数でやりたいと思います。それが今度この先未来の神奈川県にお願いしたいことです。それと、毎回本当に神奈川県の職員さんが必死に説明していたり、あと中身を本当にわかりやすくしてくれるのだけど、非常に資料が多くて、そこも改革してもらうといいのかなと思っています。

まいいかいちこく 毎回遅刻したりして、すごく皆さんに迷惑かけるなと思っていて、来年チャンスがあ  
まなみなめいわくおもらいねん  
よおなくかえおも らいねん  
ここんどのものかえしあわおもねが  
今度はおいしい飲み物とおいしいおやつがあったら幸せになると思います。よろしくお願  
いします。

たかのいいん  
(高野委員)

たかの 高野です。2年間この部会に参加させていただいてありがとうございました。このよう  
けんとりくみさんかすこけんせさくこうけんうれおも  
な県の取組に参加できて、少しでも県の施策に貢献できたのが嬉しく思います。かなり力  
ばじゅうはつげんあいついんしょのこいいんみな  
オスな場で、自由な発言が相次いだことも印象に残っています。委員の皆さんがあさまざま  
しようとうじしゃたちばごいけんもまいかいはなしうかがたの  
な障がい当事者の立場での御意見をお持ちなのだと、毎回お話を伺いするのを楽し  
みにしておりました。

ひとつ残念だったことは、このとおり自分では喋れないので、ちょっとお喋りして仲良  
くなることができなかつたことです。最後になりますが、内藤部会長には、この2年、こ  
のようないとうぶかいちょうねん  
じょうきょうとけんちょうみなじぜん  
事後の連絡や議論の施策への反映など、ありがとうございました。以上です。

さるわたりいいん  
(猿渡委員)

さるわたり 猿渡です。この2年間、本当に内藤さんをはじめ、県庁の職員や他の方々、もちろん  
ぼくいいんほんとうつかさまなかかだいさいしょ  
僕ら委員、本当にお疲れ様でした。この中の課題というのは、最初はアイスブレイクの  
かたちこつくかいたどしょうないぶしよう  
ような形で1個作って、そのあとは会をそれぞれ、例えば3障がい、内部障がいとかい  
るいろいろあるので、ワーキングとかでもいいんですけど何回か設けてその中で少し話をして  
つた  
伝えるということができたらいいのかなというのと、もしさまた来年、次回入れるとしたら、  
かながわけんそうごうけいかくしんぎかいはい  
神奈川県総合計画審議会とかも入っているので、P D C Aサイクルという計画を立てて  
じっこうじょうれいねん  
実行してという、さっきの条例の5年のところなんかもそうなのですけれども、そのP D  
けつかかいめかながわけんはじとうじしゃぶかい  
C Aサイクルの結果、この1回目でやった神奈川県が初めてやったこの当事者部会の結果  
を2期にちゃんと伝えられるような、今日はそういう回になったのではないかと思います。  
しょくいんかたがたよるおそはたらじおくでんわ  
職員の方々は夜遅くまで働いて、いつも21時とかにメールを送っても電話をかけても  
でいそがほんとうしりょうき  
出るぐらいお忙しくて、本当に資料もぎりぎりで、よくくえびこに来ていただいて、いろ  
ばしょぼくたいちょうわるき  
んな場所に僕の体調が悪かったら来ていただいたりする。そういう配慮がすごくできている  
けんぼくすじかいすこおおかたじかんせいやく  
県なので僕はすごく好きなのですけれども、次回はもう少し多くの方と、時間の制約と  
すこながかおいっしょしかた  
いうのはあるのでもう少し長く、あとはいいつも顔ぶれが一緒になるのはそれで仕方  
じせだいいくせいあたらかたいなか  
ないのですけれど、次世代を育成するために新しい方も入れていただいて、その中ででき  
ればいいのではないかと思いました。本当に皆さんお疲れ様でした。

**(高橋委員)**

高橋です。2年間、いろいろと、黒岩知事、首藤副知事、職員の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。お疲れさまでした。盲ろう者として、今まで一応国の方にいろいろ要望してもなかなか成功できませんでしたが、今回黒岩知事の答弁を聞いて成果があったと思います。それから、ぜひ定義についても載せていただきたいと思っております。

来年も私が参加するかどうかわかりませんが、皆さんとまた顔をあわせて会議が進められればと思っています。いろいろとありがとうございました。

**(弓矢委員)**

弓矢です。まず皆さん、2年間ありがとうございました。私はこういう会議に参加させていただくのが初めてだったので、戸惑うことが多くて全然発言できなかつたという反省点が残っているんですけど、後半は内藤部会長に指名していただけてありがたかつたです。普段は身体障がいを持つ方と関わることが多いのですが、自分と違う障がい者の方々とお話しする機会というのはすごく少なくて、抱えている課題が全然違つて悩まれてるんだなというのを知ることができましたし、すべての人が生活しやすい環境を作るってすごい難しいんだなということを痛感しました。

またこういう場に参加させていただく機会があれば、より良い環境を作つていけるように私も意見を言つていただきたいなと思いました。ありがとうございました。

**(事務局)**

それでは、オンラインから榛澤委員お願いします。

**(榛澤委員)**

2年間大変お世話なりました。参加させていただいて、決して自分の意見が障がい者の代表というわけではないんですけども、やっぱりこういうところに行政とか社会へ声を出せない人の代わりに伝えなきゃという思いも、自分の独りよがりかもしれないけど、そういう使命感があつて話してきたつもりです。ただ、言い方がきつかったりとか、画面に顔を出せないのは本当に無礼だったと思うので、そこは本当に謝ります。

最後に、どうしても当事者目線という言葉は僕は違和感があつて、今まで当事者の目線に立たず、非常に支援者目線でやつてきたからこそこういう言葉が出てきてやつているのでしょうかけど、どうしても当事者目線ではなくていわゆる役所目線で考えた当事者目線みたいに感じてしまうことがあって、もちろん当事者目線という言葉がいけない、使うなとは言いませんけど、ただ当事者の目線というのをわかつたつもりというか、少しあわつ

したことによって、中途半端にわかったことによってわかったように思わないでほしいと思います。2年間本当にお世話になりました。本当にありがとうございました。以上です。

(事務局)

それではオンラインから多賀谷委員お願いします。

(多賀谷委員)

多賀谷です。2年間振り返ってみると、ほとんどZoomで参加をしたことが多かつたのだなと思います。家庭もありますけれども、もし来期御依頼がありました場合には、現場というか会議の場所に伺って、皆さんのお顔を拝見して意見を交換したいと思っております。今日まで2年間いろいろと話を聞いて、意見を聞いて、いろいろ悩み、苦しいことが立場立場によって違うと、そういった意見を聞かせていただきましてありがとうございました。以上です。

(事務局)

最後に内藤部会長、よろしくお願ひいたします。

(内藤部会長)

2年間大変お世話になりました、ありがとうございました。司会がうまくできなくて、皆さんから御意見をいただけたかどうか、非常に心配しております。でも、いろいろな当事者からの意見をいただくことができましたこと、大変ありがたいと思っております。ぜひ、こういう機会を今後とも作っていただけたらありがたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

皆さん本当に大変ありがとうございました。こうした大変貴重な意見をしっかりと受けとめて、今後も障害当事者部会、続けてまいりたいと思います。

なお、本日、会議の中で榛澤委員から2分間のベルのお話をいただきました。これは限られた時間でなるべく多くの皆さんに御発言いただきたいという目的で導入したものでございますけれども、皆さん本当にコンパクトにまとめて発言をいただきまして、長くなる人はもうほとんどいなかったのかなというような印象を持っております。

今後の取り扱いについては、また委員の皆様の意見も聞きながら検討していきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

じむきょく うんえい  
【事務局による運営】

- しゅとうふくちじあいさつ  
• 首藤副知事挨拶
- じむれんらく  
• 事務連絡